リアルタイムの観測情報などの生のデータを、ユーザーのニーズに合わせて利活用できる形に知的処理したものが「情報プロダクツ」です。防災科研は、ユーザーの意思決定に役立つ「情報プロダクツ」の研究開発、および社会への実装に向けた取り組みを行っています。

災害の前に、わたしの避難を考える

防災Webツール「YOU@RISK子ども版-洪水」「YOU@RISK子ども版-津波」

災害が起きたときに適切な行動をとるためには、今後起こりうる災害によって、自分がどのような影響を受ける可能性があるのかをあらかじめ知り、日ごろから備えておくことが大切です。災害過程研究部門では、一人ひとりの居場所や抱える課題に応じて災害に関連する科学的なデータを提供する情報プロダクツ「YOU@RISK(ユー・アット・リスク)」の開発に取り組んでいます。

今回紹介するのは、その考え方を子どもたちの防災学習に展開した「YOU@RISK子ども版-洪水」「YOU@RISK子ども版-津波」です。GIGAスクール構想に基づくICT教育の一環として、パソコンやタブレットでデジタル地図（Webマップ）を操作しながら、自宅や学校、通学路のまわりにどのような災害の危険があるのかを調べ、どこへ、どのように安全に避難するかを学習することができます。

災害で受ける影響は、地域や場所によって異なります。「YOU@RISK子ども版」は、子どもたちが災害リスクを「自分のこと」として考え、安全な避難行動の考え方を学ぶための防災Webツールです。

Webマップで、自分の場所から考える

YOU@RISK子ども版では、Webマップを操作しながら、自分の家や学校、通学路など、身近な場所の危険を調べることができます。

洪水版では、洪水による浸水の範囲や深さ、家屋倒壊等氾濫想定区域などが確認できます。津波版では、津波による浸水の範囲や深さを確認できます。どちらも、身近な場所にどのような災害の危険があるのかを調べて学ぶことができます。

同じ市町村の中でも、川に近い場所、海に近い場所、低い土地、高台など、場所によって災害の危険性は変わります。YOU@RISK子ども版は、そうした違いを地図

防災教育で広がる YOU@RISK の活用

YOU@RISK 子ども版は、学校の防災教育でも活用されています。

文部科学省「実践的な防災教育の手引き（小学校編、令和5年3月／中学校・高等学校編、令和6年3月）」には、防災教育のデジタル教材として「YOU@RISK（STEP2）」の洪水版・津波版・火山版を活用した学校防災教育の実践事例が掲載されています。児童・生徒一人ひとりがタブレット端末を使って、Webマップを操作しながら地域の災害時の危険や避難行動を学習する、防災教育の一例として紹介されています。

また、内閣府ウェブサイト「デジタル技術を活用した防災教育の実践事例」では、同じく「YOU@RISK」を活用した火山防災学習の事例が紹介されています。

洪水、津波、火山。災害の種類は異なっても、共通しているのは「自分の場所を起点に、危険を知り、避難を考える」という学びの姿勢です。

上で確認しながら、災害リスクを「自分のこと」として考えるための入口となるツールです。

どこへ、どのように避難するかを考える

危険を確認したあとは、避難先と、そこまでの経路を考えます。洪水版・津波版のどちらも、災害種別に対応した避難場所を地図上で確認できます。自分のいる場所からどこへ向かうのか、どの道を通るのか。Webマップを使いながら、いざというときの行動を具体的にイメージしていきます。

大切なのは、決められた答えを覚えることだけではありません。自分のいる場所の災害の危険を確認し、より安全な避難先を探し、避難先までの安全な経路を考える。その一連の学習を通じて、子どもたち自身が「災害が起きたら、自分はどう行動するか」を考えることが大切なのです。

災害の前にできることを、子どもたちの力に

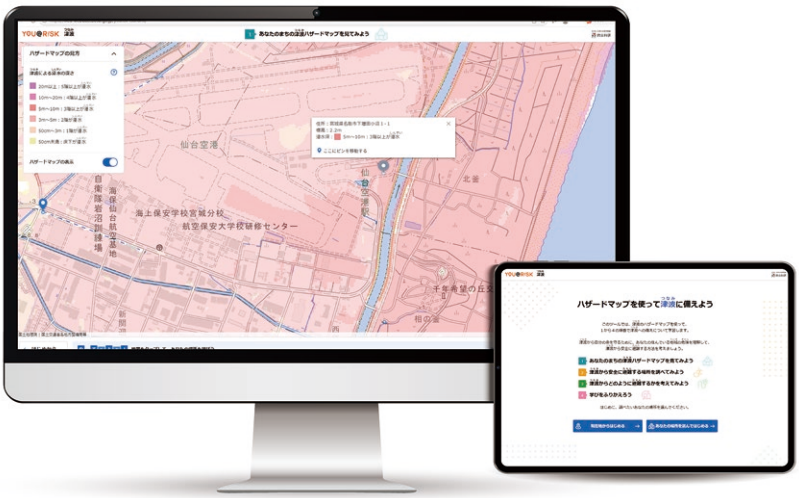
災害は、起きてから「どうするか」を考え始めるのでは間に合わないことがあります。だからこそ、日ごろからの備えが重要です。

「YOU@RISK子ども版」は、子どもたちが自分の家や学校、通学路のまわりの危険を知り、どこへ、どのように避難するかを考えるための防災Webツールです。災害が起こる前から「わたし」の避難行動を学んでおく。その学びが、いざというときに命を守る行動につながっていきます。



YOU@RISK
子ども版－洪水

https://nied-weblabo.bosai.go.jp/yourisk-kouzui/



YOU@RISK
子ども版－津波

https://nied-weblabo.bosai.go.jp/yourisk-tsunami/